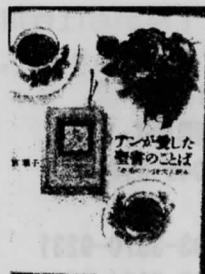


## アンが愛した聖書のことば

宮 葉子著 「赤毛のアン」を大人読み いのちのことば社  
の序文より

赤毛のアンには聖書からの引用が多いのも特徴のひとつです。登場人物の名前には聖書由来が多く、例えば、マシューはイエス・キリストの12弟子のひとり、マタイの英語名です。アバンオリーというコミュニティの中心には教会があります。アラン牧師夫人がアンの精神的よりどころとして褒めちぎられているのは「赤毛のアン」を書いた当時のモンゴメリが、牧師と婚約中だったせいかもしれません……中略……モンゴメリは聖書の教えをあえて登場人物に語らせるような野暮なことはしていません。彼女はあくまでもひとりの作家です。彼女自身の内面に織り込まれたものが、よく練られた『赤毛のアン』の物語に、永遠の輝きを与えているのだと思います。その輝きを宝探しのように探してみてください、今度はどのようなアンが見えてくるのでしょうか。



この本を希望者にプレゼントします。

翻訳者花子の生涯も紹介されています。  
応募券をハガキに貼り  
住所・氏名 電話番号を明記のうえ  
下記にお送りください。

### 定期集会

(日) 礼拝と学び 10:30~12:10  
教会学校 13:30~14:30  
夕 拝 19:30~  
(水) 聖書の学びと祈禱会 19:30~  
(金) 聖書の学びと祈禱会 10:00~

〒213-0023 川崎市高津区子母口766

編集 日本同盟 **子母口キリスト教会**

基督教団 e-mail shibokuchi@church.jp

発行 牧師 小岩井 信 http://shibokuchi.church.jp/

電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157

# チャペル通信

2014年

村岡花子特集

89号

「御機嫌よう」のもと「シャローム」

イエスはもう一度、彼らにいわれた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたようにわたしも、あなたがたを遣わします。」 ヨハネの福音書21章21節

「御機嫌よう」というあいさつはNHK朝の連続テレビドラマ「花子とアン」が始まってからよく耳にする様になりました。

「花子とアン」の翻訳者の村岡花子は東洋英和学院で学びました。その伝統となっている挨拶が「御機嫌よう」で、今でも生徒・学生はそう挨拶します。

東洋英和学院は明治18年(1885))にカナダから来日した宣教師のM・Jカートメルが創設しましたが、日本人でないこと認められないので、花子の父に洗礼をさずけた小林光泰が創立した事になっています。

新約聖書は主に福音書といわれるイエス・キリストのことばと、弟子たち(使徒)の手紙で構成されていますが、その書簡の挨拶に「シャローム」というヘブル語に当たるギリシャ語が使われました。「平安がある様に」と訳せます。イエスさまが復活され弟子たちに現れた時に、言われたことばです。聖霊としてイエスさまは私達とともにいてくださり、どのような状況に立たされても平安を与えてくださいます。

聖霊がくだって来た日をペンテコステと言います。  
今年は6月8日です

# 村岡花子を取り巻く キリスト教の世界

## 安中 はな（安東はな） 生い立ち

1893年6月21日に甲府で、安中逸平・てつの長女として生まれました。安中逸平は静岡の茶商に生まれ行商中、カナダ・メソジスト教会に出入りし洗礼を受けました。布教の流れで甲府に移りそこで育った、てつと結婚し、はなを授かりました。はなは2歳の時に洗礼を受けました。はなが5歳の時 逸平はてつの実家とのあいだのいざこざで、甲府を去り南品川に住みました。（ドラマとは設定が違います。）

城南尋常小学校に入学したころからはなは心象風景を短歌に詠み句作を楽しむ少女でした。はなが10歳の時、逸平に洗礼をさずけた小林光泰（森）牧師との関係から、東洋英和女学校に給費生として入学を許されました。入学後のはなの実家は家計が貧しくなり、次女と3女以外の幼い弟妹5人は養子に出されたり奉公に出されました。



東洋英和女学校時代の安中はな

## 東洋英和女学校（修和女学館）

1882年に来日した、カナダメソジスト教会の宣教師 マーサー・J・カートメルによって設立しました。

メソジスト教会とは18世紀イギリスでジョン・ウエスレーが興した信仰覚醒運動から起きてきた教派です。規則正しい生活を送ることが基本で、「几帳面」とあだなされるほどの熱心な信仰が特徴です。

日本でも青山学院大学設立などの教育活動にも熱心でした。カナダメソジスト教会は東洋英和のほか、静岡英和学院・山梨英和学院などが初期の宣教活動の結果設立しました。花子は山梨英和学院で教師になりました。

東洋英和の大学院にて花子の資料公開しています。

## 明治時代に開校したミッションスクール

155年前、宣教師が横浜に居住した為、横浜には伝統あるミッションスクールが多くあります

フェリス女学院	メアリーE・キダー	1870
横浜共立女学院	ピアソン/ プラインクロスビー	1871
横浜英和女学院	ハリエット・ブリテン	1880
捜真女学院	C・Aカンバース	1886
関東学院	N・ブラウン	1873

## 花子にキリスト教の愛で指導したブラックモーア校長

卒業式のブラックモーア校長のことば

（ブラックバーン）

むすめたちよ。今から15年20年30年のちにあなたがたが今日のこの時代を思い返して、なおかつあの時分が一番幸福だったと心底から思うようなことがあるとしたならば、わたしはそれをこの学校の教育の失敗だといわなければなりません。人生は進歩です。今日は昨日よりも良く、明日は今日よりもすぐれた生活へとたえず前進していくのが真の生き方です。

最上のものは過去にあるのではなく、将来にあります。旅路の最後まで希望と理想を持ち続けて進んで行く者であって下さい。



## 花子が働いた出版社 教文館（向学館）。

1885年日本メソジスト教会が創業決定し、1891年からは竹川町（現銀座7丁目）に店がありました。現在は銀座4丁目にあります。

キリスト教関係の本・グッズを買いいたい方には

プロテスタント関係を主に扱っている下記書店もお奨めします

**オアシス横浜店** 横浜市中区鶴屋町3-35-9 045-316-0351

（5月30日リニューアル・オープン）

**オアシス新宿店** 渋谷区代々木2-7-7 03-3370-9231

**お茶の水CLC** 千代田区神田駿河台2-1 03-3294-0775

## 花子が所属していた教会 大森めぐみ教会

教文館に出入りしていた村岡印刷の御曹司と結婚し、花子晩年の1966年まで大田区中央3丁目に居住し大森めぐみ教会会員でした。

「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」で

大田区に開設されていますが現在は休館中です



東洋英和の大学院に花子の「大田区文化の森」で

花子が暮らしたまち大森」

自宅執筆中の花子

展示コーナー開催中（03-5744-1226 大田区多文化共生推進課）